

(地図／写真) インドネシア・西ジャワ州チレボン県の石炭火力発電所サイト、および、周辺地域 (写真: FoE Japan および WALHI 撮影)

チレボン石炭火力発電所

発電所煙突から半径 1 km 内

発電所煙突から半径 2 km 内

Palimanan-Kanci-Tol

AH2

Raya Mundu

Image © 2015 CNES / Astrium

石炭貯蔵場 (写真奥の青と白の壁内) に隣接するアスタナジャプラ郡カンチ・クロン村の農地。事業開始後、コメの収穫が激減するなどの影響。(2015年2月)

小漁業の場は事業に伴う港湾建設 (写真奥) で狭くなり、漁獲量も減少。(2015年2月)

石炭火力発電所の近くに広がる塩田。乾季に盛んに行なわれてきたが、海水汚染と思われる影響がみられるように。(2015年8月)

インドネシア全体図

チレボン石炭火力発電所:
発電容量: 660 MW (超臨界圧)
総工費: 8.5 億米ドル
事業者: Cirebon Electric Power (CEP)
= 丸紅 (32.5%)、韓国中部電力 (27.5%)、Samtan (20%)、Indika Energy (20%)
融資: JBIC、韓国輸出入銀行、民間銀行
総額 5.95 億ドル (JBIC=2.14 億ドル)
商業運転: 2012年7月開始



小漁業の場は事業で狭められ、漁獲量も減少。カンチ・クロン村では使われなくなり、放置されている小舟も。(2015年2月)



以前、海岸線沿いでは貝採取(写真左)や小漁業が盛んだったが、使わなくなった道具を見せるカンチ・クロン村の住民(2015年8月)



石炭の積上げ時に散乱した粉塵が漁村ムンドゥ郡ワルドゥウル沿岸に(2013年1月18日、漁民撮影)



魚類やエビ類の漁獲量が半減以上になったと嘆くカンチ・クロン村の小漁業従事者ら。(2015年8月)



CEPが小漁業従事者に提供した小舟。2014年12月に提供されたが、約3ヶ月後には返還させられた。(2015年2月)



ワルドゥウル村に広がる養殖池。事業後、魚等の育ちが悪くなる等、影響がみられる。(2015年2月)



発電所煙突 2km 内にあるカンチ・クロン村庁舎。すぐ隣接する場所には小学校もある。事業後、発電所からと見られる粉塵がみられるように。(2015年8月)



カンチ・クロン村庁舎内にみられる粉塵。(2015年8月)



石炭貯蔵場に隣接するカンチ・クロン村の農地。当初、収用予定だったが、補償額に合意せず、収用はされぬまま。しかし、収穫が激減。(2015年2月)



石炭貯蔵場に隣接するカンチ・クロン村の農地。穂に実った籾には空のものも目立つという。(2015年2月)



石炭貯蔵場に隣接するカンチ・クロン村の農地。事業開始後、コメの収穫が激減した農地が目立つ。(2015年2月)



石炭貯蔵場に隣接するカンチ・クロン村の農地。。(2015年2月)



石炭火力発電所の近くに広がる塩田。乾季に盛んに行なわれてきたが、海水汚染と思われる影響がみられるように。(2015年8月)



取り込んだ水が黒ずむようになったため、それをきれいにするため、幾つかの塩田用池のスペースを利用するように。油分のようなものも見られるが、原因は不明。(2015年8月)



生産した塩に黒い物が混じるため、洗い流すのにも、以前より時間がかかるように。(2015年8月)



石炭火力発電所近くのカンチ・クロン村の塩田。事業後、塩の生産量は減少。(2015年2月)



取り込んだ水が黒ずむようになったため、それをきれいにするため、幾つかの塩田用池のスペースを利用するように。(2015年8月)



2014年9月の発電所内での爆発事故により損傷を受けたアスタナジャプラ郡カンチ・ク
ロン村の家屋。発電所から半径2km以内。補償は受領していない。(2015年8月)



2014年9月の発電所内での爆発事故により損傷を受けたチレボン県ムンドゥ郡ワルドゥウル村
の家屋。発電所から半径1km以内。自費で修理。
(2015年2月)



2014年9月の発電所内での爆発事故により損傷を受けたアスタナジャプラ郡カンチ・ク
ロン村の家屋。発電所から半径2km以内。補償は受領していない。(2015年8月)